



小林種苗の店舗外観



従業員の方々に囲まれて店内で。従業員満足は小林種苗の柱となる理念だ



敷地内の昔の建物。「小林のタネ」の文字が時代を感じさせる

70カ国に販売している。

「販売先は、大手企業との差別化を考え、中緯度帯ではなく、北回帰線と南回帰線の間の地域をねらいました」。つまり、赤道の両側に帶状に広がる熱帯のアジア、アフリカ、南米などの諸国である。他の企業が進出していない頃から、こうした新興市場を開拓してきたおかげで利益も出ている。ただ昨今はテロなどの危険があって、行くこと自体が困難になった国もあるのが悩みだ。

一方、国内では全国各県に販売担当者を置き、種苗小売店、JA全農、JA、肥料店、商社、ホームセンター、農業法人、食品チェーンなど多岐に渡る取引先に販売している。「近年ではスーパー、デパート、レストランチェーン、植物工場など、異業種との取引も目立ちます」。

従業員は現在40数名。肥料や資材も扱っているが、



会長の小林恵子さん。先代社長の夫、小林 勝氏亡き後、恵子の小林さんと共に会社を守ってきた

圧倒的に種苗が多く、9割を占める。

学生起業ブームを先導する

小林さんは昭和38年（1963）生まれ。二人兄弟の長男で、3才年下の弟がいる。高校生くらいから家業を継ぐ意識があったのかと思って尋ねると、「それがまったく